AIをちょっと考える

22期　久保多 貞夫

私は55年ほど前に学校を卒業して会社に入り、コンピュータを使って製造設備の自動化や生産管理システムを開発する仕事に就いた。高度経済成長期であり本格的なコンピュータ活用が始まりかけていた。バブル経済の頃にはパソコンやネットワークシステムが使われ始めたが、第二次AIブーム期でもあり、私達もAI開発に挑戦した。

会社を退職して約10年経った頃に、IT関係の講演を頼まれた。1年の準備期間をもらって最新のIT活用状況を調べたが、一番驚いたのは、初めの頃にすごい最新技術だと思ったことが半年も経つとありふれたものなる技術進歩の速さであった。上述のAIとは次元の違うAIが開発され、コンピュータが将棋や囲碁の名人に勝つようになっていた。しかし、限られた専門技術に関するAIであり、人間を普遍的に超えるAIにはほど遠かった。

ところが今や、多様な質問や依頼にほとんど違和感なく対応出来る生成AI（ChatGPTなど）が身近なものになっている。普遍性が出てきたのだ。武器やロボットへのAI適用も各国が競い、賢いAIの暴走も現実味を帯びてきた。今後AIは人間の仕事をどんどん奪っていくだろう。これからの若者は何を学びどんな職業に就くと良いのだろうか？孫のことを考えると心配になる。AIは今後もますます発達をするだろうが、人とAIが協働していく社会が来ると考え、それに備えることが大切である。



データセンター